(2) 大正4台

īF 大正14年 昭和5年

昭

和

大正9年

昭和10年

昭和15年 昭和20年 823025年

昭和30年

昭和35年

82#040£

昭和45年

昭和50年

平成2年 平成7年

平成12年 亚

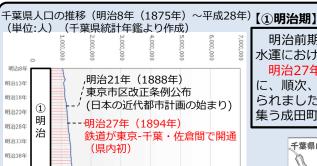
平成17年 成

平成22年

#### まちづくりのうつりかわり 都市計画の歴史

千葉県内鉄道網の沿革





大正8年(1919年) 旧都市計画法公布

昭和7年

千葉市で都市計画区域決定(県内初)

,昭和38年 新住宅市街地開発法公布 ,昭和43年 新都市計画法公布

昭和44年 千葉二ユータウン

成田ニュータウン認可

-九十九里鉄道(東全--上総片貝) 昭和36年2月度止 - 南総鉄道(茂原-- 奥野 昭和14年2月度止



明治前期の千葉県は、江戸時代から主要な交通手段となっていた東京湾、利根川等の 水運における拠点都市(銚子町、佐原町、木更津町等)を中心に集落が形成されていました 明治27年(1894年)、県内で初めて東京〜千葉・佐倉間で鉄道が開通したのを皮切り

に、順次、成田・銚子等の拠点に延伸され、県内各地と東京を結ぶ鉄道網の整備が進め

られました。鉄道網の結節点であった官庁街の県都・千葉町や成田山新勝寺の参詣客を

集う成田町等は旅客者の増加とともに、一層まちづくりが進展することとなりました。

千葉県内鉄道網の沿革(出典:図説千葉県の歴史)



明治27年(1894年)頃の千葉駅(現東千葉駅近辺) (出典:'91千葉市制施行70周年記念誌)



国鉄成田線(出典:成田歴史アルバム)



昭和7年頃の京成千葉駅(現中央公園) (出典:'91千葉市制施行70周年記念誌)

# 【②大正期】

大正期になり、東京市等の大都市において無秩序に進む市街化や土地利用の混在等の 問題が顕在化してきました。このような問題に対応するため、道路・公園等のインフラ 整備や土地利用の適正な規制等を目的に、大正8年(1919年)に「旧都市計画法」が <mark>公布</mark>されましたが、当時千葉県では宅地需要がまだ少なく、法適用外となっていました。

### 【③昭和期:戦前】

昭和期・戦前の千葉県では、県北西部において人口増加と無秩序な市街地拡大が顕著 となり、昭和7年に県内で初めて千葉市で都市計画区域が決定されました。その後、 船橋、成田等の主要都市においても、人口増加に対応した用途地域や道路等の都市計画 が決定されました。



(出典:千葉県企業庁事業の軌跡)



平成27年度千葉ニュータウン(平成25年度完了) (出典:千葉県企業庁事業の軌跡)

#### 【③昭和期:戦後】

戦後の戦災復興を経て、昭和30年代からの高度経済成長期では、産業の発展に伴う 就労者と東京への通勤者等による人口の急激な増加が見られ、市街地の無秩序な拡大に よる住環境の悪化等の都市問題が生じました。

このような問題に対応するため、昭和43年に線引き制度(市街化区域と市街化調整 区域の区分)や開発許可制度等を導入した「新都市計画法」が公布され、住みよいまち づくりのための新たなルールが生まれました。

また、新住宅市街地開発法を活用したニュータウン建設や土地区画整理事業等が都市 計画事業として整備され、新たな住宅需要の受け皿となりました。

## 【④現在】

明治時代の鉄道網の形成等が礎となり、 現在も千葉市や成田市は県内の拠点都市 として発展を続けています。県内の各拠点 では、市街地再開発事業をはじめとする 土地の高度利用や都市機能の更新等を計画 的に行い、明治時代から続く「まち」を 次世代に継承する都市計画の取組が進めら れています。



千葉駅西口市街地再開発事業(出典:千葉市HP)